

ますます身近に外国人市民との暮らし

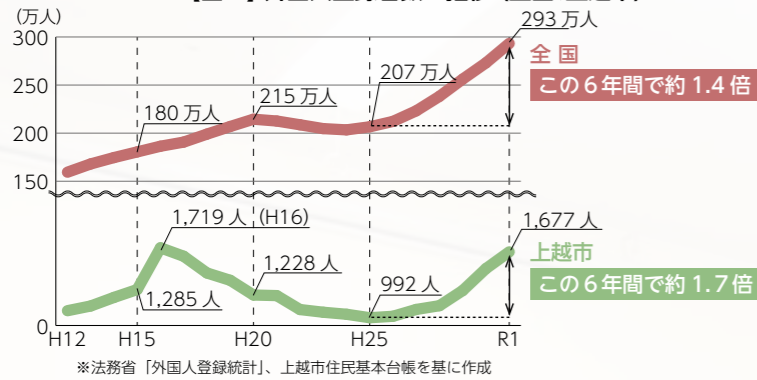
ー 互いを尊重し合い、みんなが住みよいまちへー

近年、市内で暮らす外国人の皆さんが増えていることを知っていますか。今後、ますます身近な存在になる外国人市民との「共生」について、一緒に考えてみましょう。

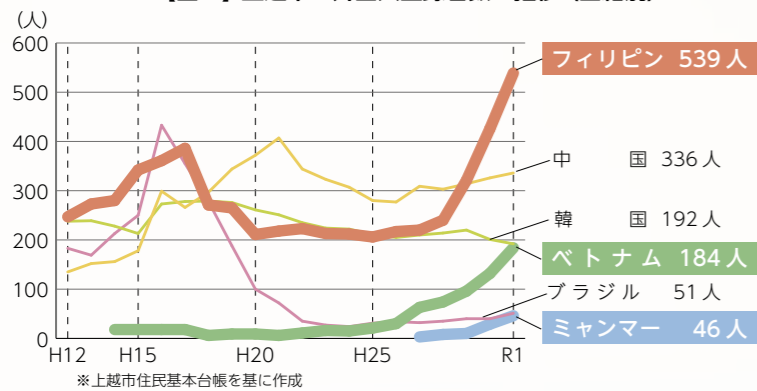


日本語教室で、日本の災害について学ぶ受講生の皆さん（市民プラザ）

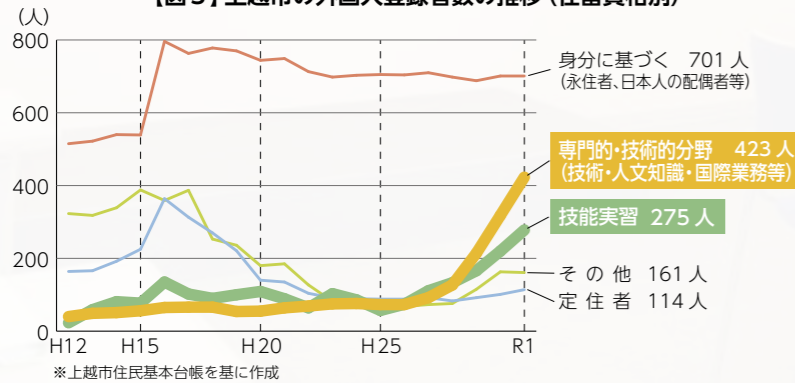
【図1】外国人登録者数の推移（全国、上越市）



【図2】上越市の外国人登録者数の推移（国籍別）



【図3】上越市の外国人登録者数の推移（在留資格別）



日本で暮らす外国人の数が増えてきています

日本で暮らす外国人の数は、戦後、1980年代のバブル景気や円高の進行などにより、労働者を中心に大きく増加してきました。その後、バブル崩壊やリーマンショックによる停滞があったものの、平成25年から令和元年までは7年連続で増加を続けています。令和元年には293万人（新潟県の人口は223万人）となり、日本人の人口が平成21年をピークに11年連続で減少する一方で、外国人は日本の全人口の2・25%を占めるまでになりました。【図1】

この背景には、国としても、少子高齢化に伴う労働力不足に対応するため、法制度の改正などによって、外国人の受け入れを促進してきたことがあります。

上越市で暮らす外国人の皆さんはこの6年間で1.7倍となりました

上越市で暮らす外国人の数も、全国的な傾向と同様に、平成16年をピークに平成25年までは減少が続きましたが、平成26年から令和元年までは、毎年増加を続けています。

【図1】

国籍別で見ると、令和元年ではフィリピン、中国、韓国が上位3カ国を占めています。近年では、フィリピン、ベトナム、ミャンマーを母国とする人が増加しています。

【図2】

在留資格別では、「技術・人文知識・国際業務」などの専門的・技術的分野および「技能実習」の在留資格を持つ、市内の事業所で働くことを目的にしている外国人の皆さんが増えています。【図3】

次のページからは、同じまちに住み、働き手として活躍している外国人の皆さんが、どのような思いを持って日本へ来て、どのように暮らし、どのようなことが課題となっているかについて取り上げます。

【在留資格】ひとくちメモ

- 技術・人文知識・国際業務
大学卒業などの学歴のある人や一定の実務経験を持つ人が、その学修した内容や実務経験に関連した業務に就く場合に付与される在留資格。期間の更新により長期間働くことが可能で、配偶者や子どもを呼び寄せることもできます。
- 技能実習
日本の技術などの修得を通じて開発途上国の経済発展を担う人材づくりに協力することを目的とした、「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」に基づく在留資格。試験を経て、最長5年間実習を続けることができます。